

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

基本方針 1 市民活動に関する情報収集・提供

実施施策 1	紙媒体による情報提供の充実	委員会評価	4
委員会の意見			
<p>《進展したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 新聞社各社へ、市民活動の掲載促進ができたことは、高く評価できる。新聞記事への掲載は、宣伝効果が高く、またメセナ、スポーツとよかわは新聞折り込みで各戸に配布されるので、有効活用してほしい。紙媒体による周知は重要。</li> <li>• 団体自ら各所に情報を提供する機運が上がっているのでは。</li> <li>• 企業が発行する情報紙の活用が進み、市民の目に留まりやすくなっていると感じる。</li> <li>• 小学生向け町内会活動啓発冊子を授業で取り上げる学校が、前年よりも増えている。また、コロナ禍で出前講座の参加人数は減少したが、町内会活動啓発冊子の配布数は増加しており、町内会活動の周知は進んだのではないかと感じた。毎年子どもが変わるので、続けて啓発してほしい。中学生に向けても同様の事業ができると良い。</li> </ul> <p>《残された課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 紙媒体を活用した周知は、目に留まりやすく、必要であると思うので引き続き、紙媒体の情報提供の充実を目指してほしい。協働が難しいことではないことを周知するためにも、情報提供を活発に行い、協働の理解を深めてもらう。</li> <li>• 企業紙への掲載の働きかけを行うために、企業紙を把握する必要がある。企業には、協働への理解を深めてもらいたい。</li> <li>• コロナ禍で事業が減少する中、どのように気軽に市民活動へ参加できるようにするか？参加型の事業を計画する際には、情報提供・啓発のあり方が重要になる。</li> <li>• コロナ禍で学校へのアクションが減ったのは仕方がないが、しばらくアウトリーチが制限されると思われるので、難しいとは思いますが何か他の手段の検討が必要。</li> </ul>			

実施施策2	インターネットなどの効果的な活用	委員会評価	4
-------	------------------	-------	---

## 委員会の意見

## 《進展したこと》

- Facebook、Twitter は市内外を問わず、多くの人に豊川を知ってもらう良い機会になっている。特に今までこちらの発信が届きにくかった若い世代にとっては、手軽で魅力的な活動である。
- 「あいち電子申請届出システム」の活用が増えている。各講座の申し込みなどがネットでできるようになり、利用しやすくなっている。時間の制限もなく、自由に利用できるのも、今後も増えるとよい。
- メール配信によるボランティア募集の情報、ボランティア講座に関する情報を多く配信したことにより、市民ボランティアが前年の8名から30名へと増加。システム登録者数も54名から75名へと増加。これにより、ボランティアなどの情報を求めている人を取りこぼしにくくなり、ボランティアの参加促進に繋がったと感じた。
- 広報リポーターの登録が前年度より10名増加したことは、今後の活動に期待できる。登録者が増加したことで、様々な角度から市民活動の情報発信が可能になった。

## 《残された課題》

- Facebook や Twitter からのボランティア募集の情報が少ない。
- SNS による情報発信の仕組みが構築されているが、なかなか Facebook、Twitter のフォロワー数が伸びないことは大きな課題。今後も改善していく工夫をしていきたい。
- インターネットでの講座の申し込みは時間の制約のある人にも簡単に手続きができるので、利用が増えるような周知ができるとうい。
- 市民ボランティア情報提供システムや広報リポーターの周知を、もっとインターネットを利用して情報発信していけないか。
- オンラインの講座をはじめてみては。
- どすごいネットの運用支援について触れられていない。継続していく必要性がよくわからないので、成果があるなら提示を。
- 「あいち電子申請届出システム」を活用した講座件数が9件で少ないのではないかと。良いシステムなので周知を希望。

基本方針2 人材育成と協働意識の醸成

実施施策1	担い手の育成と活用	委員会評価	4
委員会の意見			
<p>《進展したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 若者ボランティア体験講座は、コロナ禍にもかかわらず、定員以上の受講者が集まり、若者のボランティアへの関心は向上していることがわかった。順調に数も伸びていて、活動のきっかけづくりとして有効であると感じる。</li> <li>• 健康づくり推進員養成講座は、参加者の関心がある事柄を調べたり、周知方法も工夫していて、複数回の講座でも、継続して参加ができています。</li> <li>• コミュニティーリーダーの講座について、コロナの影響を考慮して、2回同講座を開催したことは工夫を感じた。100人以上の人が受講したことから、求められている取り組みだと感じた。前年より多くの参加者がいたことは評価できる。</li> <li>• 女性防災リーダーはとても求められていると思うので、今後も活発に講座を行ってほしい。</li> <li>• コロナ禍の制限がある状況で各種講座が開催できたことは評価できる。開催が難しかった事業もあったと思うが、開催できたものでは、受講者の増えたものも見受けられる。また、新たな講座が実施されたことは評価したい。</li> <li>• 新型コロナウイルス感染防止のため、リアルな活動が中止になったので、例年と比べることができないが、担い手活動は継続することに意義があると思う。</li> </ul> <p>《残された課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 若者ボランティア体験講座のオリエンテーションや振り返りの会は、ZOOMなどを用いてオンライン上で行えると良いと感じた。また、日時が合わずそれらに参加できなかった人のために、オンデマンドで視聴できるシステムがあれば参加のハードルも下がるのではないかと。</li> <li>• リーダー養成講座を受講された方が、学んだことを活かして、それぞれの団体での活動を進めて行けるよう、今後も内容を工夫して行ってほしい。</li> <li>• とよかわ防災リーダー養成講座等が開催できなかったため、今後、防災への各地区の意識向上が必要。全国各地で過去にない災害が起こることもあるので、災害ボランティアは、今後も積極的に事業を展開してほしい。</li> <li>• 中止された各講座が廃止にならないよう、働きかけをしてほしい。</li> <li>• 今後の人材育成のためにも、コロナ禍で講座等をどのように開催・運営していくか。</li> <li>• 受講後のフォローアップが弱いのでは。</li> <li>• 各講座でフォローアップができたため、今後は、人材の活用や意識向上を図ることが必要と感じる。</li> </ul>			

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

実施施策2	協働意識の醸成	委員会評価	4
-------	---------	-------	---

委員会の意見

《進展したこと》

- コロナ禍でも出前講座、研修、団体交流会を行い、協働の意識を高めることができた。各種事業が実施できたことは評価できる。
- コロナ禍におかれても、手引きの普及に尽力したと感じる。今後も継続してほしい。市民向けの出前講座や啓発冊子を配布することで、身の回りから協働の意識を醸成していけると思う。
- 企業向けボランティア出前講座の開催がコロナの影響で少なくなったが、企業や働く世代への働きかけの手段としては有効であると思うので、今後も広げていけるとよい。
- 市民団体の連携を行っていくためにも、団体交流会は良い取り組みだと感じた。
- 進展ではないが、コロナ禍にあっても昨年同様の活動ができている。
- コロナ禍でもできることを実施しているので、引き続きコツコツと積み上げていってほしい。

《残された課題》

- 市民協働推進員が各課における協働の機会を考えて、市民協働国際課に相談に来るまでに発展すると、補助金申請などの提出も多岐に渡ると考える。実践があると良いと思う。
- 企業側もボランティア活動は大いに協力的であるため、いろいろなきっかけを作れば意識を盛り上げていけると思う。
- 企業向けボランティア出前講座は協力企業を見つけるのが大変だと思う。協力企業に何らかのメリットを提供しないと継続ができないのではないかと危惧。
- 団体交流会の参加団体数が減少していることが気にかかる。参加への働きかけがもうひと工夫必要かもしれない。
- PTAの研修集会在書面に開催とあるが、問題解決がはたして書面のみで解決できるか。

基本方針3 市民活動団体の支援

実施施策1	活動拠点の充実	委員会評価	4
委員会の意見			
<p>《進展したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ボランティア・市民活動センターの複合機を更新し、快適に利用できるようになった。また、新型コロナウイルス対策など、利用者が安心して利用できる環境を整えられている。</li> <li>• 様々な施設で環境の整備や建物のメンテナンスがされている。</li> <li>• 地区市民館の整備(平尾・古宿)は、災害時の避難所やコミュニティ施設として大いに活用できるので、地域の方々にとっては安心して過ごせると思う。</li> <li>• 活動拠点施設の長寿命化、公共施設等使用料の減免などで団体が円滑に施設を利用できるようになった。</li> <li>• 地区集会施設の補助制度を充実させ、町内会の自己負担軽減を図ることができた。</li> </ul> <p>《残された課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 空き店舗情報の発信は目に見えた効果がなかったかもしれないが、空き店舗の利用促進は進めていくべきだと思うので、新たな取り組みが生まれたらよいと思った。地元の商店街や町内会とうまく連携できないか。</li> <li>• 豊川市で起業したい方に空き店舗の利用を促進してほしい。</li> <li>• 商工観光課の所管としている空き店舗の情報発信はその主たる目的が店舗としての利活用であり、事業が本計画の目的、趣旨から若干ずれているのではないかと思う。</li> <li>• 新たな活動拠点の調査・発掘は必要であると思うが、方法の見直しがあると思う。</li> </ul>			

実施施策2	財政的支援などの充実	委員会評価	4
-------	------------	-------	---

委員会の意見

《進展したこと》

- 市民協働推進事業7事業への補助を行い、活用された。事業の多さと支援の金額から、充実している事業だと思う。
- 協働事業として、ホワイトリングキャンペーンのような多くの市民や市民活動団体、企業等と協働できるような事業を採択し補助できたことが評価できる。ホワイトリングキャンペーンにおいては発信力もあったのでは。
- コロナ禍で困窮した生活の支援として、子ども食堂等は良い支援だと思う。
- 公共施設アダプトプログラムの登録者数も増えていて、環境美化が期待できる。
- クラウドファンディングを活用する方法は、市のPRにも繋がり、良いと思った。
- 町内会応援事業所が着実に増えていることは高く評価できる。
- コロナ禍の状況を考慮すると、支援先団体の活動はしっかり行われているように思われる。
- 財政的支援については、円滑に行われていると感じている。多くの財政的支援の方法が提示されて、市民活動団体の支援に繋がっている。

《残された課題》

- 老人会、町内会等の組織の人数が減少しているので、協働事業としてPRしていけばよいと思う。
- 町内会加入促進ができていない。
- 空き家問題は町内会との連携が必要不可欠だと感じた。手続きなどの地元負担の軽減が課題となる。
- これからの次代を担う子育て世代に優しい支援が、ボランティア活動なども含め、増えていけばよいと思う。
- プリオの団体活動室については、家賃を見直しできると良いと感じる。大府市のフロアの状況は違うので比べられないかと思うが、値段も安い設定となっているので、見直しが可能なら検討してほしい。
- 環境整備などの地域団体への委託数はそれほど多くないようだが、町内会への負担が増えると難しい面があるのではないかと思う。
- 限られた財源であるので、継続が当然という感覚をもたず、スクラップアンドビルドで補助メニューを構築してほしい。
- 町内会応援事業所が増えても、制度を活用する町内会の事業がコロナ禍で減少しているため、今後の町内会事業で活用できるのか。
- 町内会の交付金は、コロナ禍で事業が中止になっていることが多いが、例年と比べてどんな状況であるのか報告があったのだろうか。

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

実施施策3	人的支援の充実	委員会評価	4
-------	---------	-------	---

委員会の意見

《進展したこと》

- 町内会アドバイザー派遣事業は町内会の負担軽減のためにも良い取り組みであると考えられる。町内会活動について相談や課題の解決を行うことができた。今後の町内会の活動に期待する。
- BCP 講座は今までと違う視点であり、開催者側の工夫を感じる。
- スキルアップ講座は今の時世にあったテーマで講座が生まれ、活用しやすいと感じた。
- コロナ禍でも、各種養成講座、スキルアップ講座とも順調に事業が実施できていると感じる。今後も継続してほしい。
- コロナ禍だからできないということだけでなく、できることを少しずつも行っている事業を続けることが大切。

《残された課題》

- 町内会アドバイザー派遣事業が充実させ、町内会活動の支援が進められるといいと思う。町内会事業を見直し、コロナ禍での活動や、企業、住民ができることなどを検討することも必要なのでは。
- スキルアップ講座は市民活動センターでの開催だけでなく、オンライン上で講座の内容を簡単に視聴できるようになると利用しやすい。
- スキルアップ講座の受講者が少ないのは呼びかけ等に工夫が必要か？（コロナ禍だけで減少しているとも思えない。）
- 各課で行っている講座について、もう少し洗い出しできると良いと感じる。

# とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

## 基本方針4 市民協働推進の仕組みづくり

実施施策1	推進・連携体制の整備	委員会評価	4
委員会の意見			
<p>《進展したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>各審議会に登用されることで、市政に参加することができる。</li><li>コロナ禍であっても、安易に中止せずに実施したことは評価できる。</li><li>市民活動団体、町内会、企業のマッチングの仕組みづくりは大変良いと感じ、このような事例が増えると期待している。</li><li>「協働」という言葉が、広がってきていると実感している。一人ではできないことも助け合って暮らしていくという取り組みは、市全体の高評価に繋がっている。</li><li>各課順調に連携体制が進んでいると感じる。</li></ul> <p>《残された課題》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>市民活動者の審議会への登用の促進は、全て進捗度 A だが、現状が適切であるのかもらった資料では判別不明。積極的に参加する市民活動者を増やすのはよいが、町内会役員としての「あて職」での参加は減らす方向でいいのではないか。</li><li>市民協働推進員が研修等を通じて、よりノウハウを活かして各課の施策に反映することができるか。市民協働国際課だけで頑張るのではなく、長い目でみて推進できる目標を定めて各課で進めてほしいと感じる。</li><li>市民協働のまちづくりを推進するため、町内会や企業のマッチングは重要であるが、参加企業などを増やすための呼びかけや情報発信はどの様に行われているのか気になった。企業とのマッチング事業は是非とも拡大してほしいところ。</li></ul>			



とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

実施施策2	協働事業の評価・公表	委員会評価	4
-------	------------	-------	---

委員会の意見

《進展したこと》

- 市が取り組む協働事業が市ホームページで広く公表できている。市民がいつでも閲覧できるように公表することは大切だと思った。
- 公表については、着実に取り組み、評価については、詳細に評価をしなくなったため委員の負担軽減になった。
- コロナ禍で、できることが限られていたが、止まることなく少しずつ前進していると感じた。

《残された課題》

- コロナ禍で、各種事業が縮小している傾向があり、協働事業を通じてどのように市全体に活力を取り戻せるか。
- このような時期だからこそ、インターネットの活用により、オンラインで行なえる事業も増えるとよいと思った。
- 市民への公表はよくできていると思うが、まだ個々には行き渡っているわけではないので、知っている人が多くなるよう、周知・認知を広げていきたい。
- 本項目を評価対象とするならば、新しい公表の手法を考え、実践することを目標とする必要があると思うが、現状で行くならば本項目は委員会での評価対象から外してもよいと考える。
- 委員が詳細を把握できない資料になっていると感じるので、詳細を委員に知らせることができると良い。